

Information

世界骨粗鬆症デー

毎年 10 月 20 日は国際骨粗鬆症財団（IOF）と世界保健機関（WHO）により 1998 年に世界骨粗鬆症デーに制定されました。当院も国際骨粗鬆症財団が定めた世界骨粗鬆症デーカラーであるブルーを基調としたライトアップを行いました。



第 33 回若葉区民まつり

2025 年 11 月 2 日東京情報大学で若葉区民まつりが行われ当院もブースを出し参加いたしました。血糖測定と骨密度測定、健康相談を看護師と理学療法士が行いました。今回は新たに当院で行っております人間ドックや健診事業に関するご案内をしました。健康を考えていらっしゃる多くの皆さんが足を止めて資料などご覧いただきお声がけもいただきました。皆さんの健康を考えるお手伝いを今後も取り組んでまいります。



事務部接遇研修

2025 年 10 月事務職員による接遇研修を実施しました。7 日間に分け事務職員全員が受講、前述に事務部長が記載しました「患者さんの目線に立つ」ことを意識した研修を行いました。高齢者疑似体験キットを使用することで、ご高齢の方々の視点が低くなること、動きに制限があり聞こえにくさが生じることなども体験しました。ひとりひとりが丁寧な対応を心がけるよう、接遇に意識をして参ります。



医療法人社団誠馨会
千葉中央メディカルセンター
〒264-0017千葉県千葉市若葉区加曽利町1835-1
☎043-232-3691

千葉中央メディカルセンター

検索

詳細はこちら



医療法人社団 誠馨会

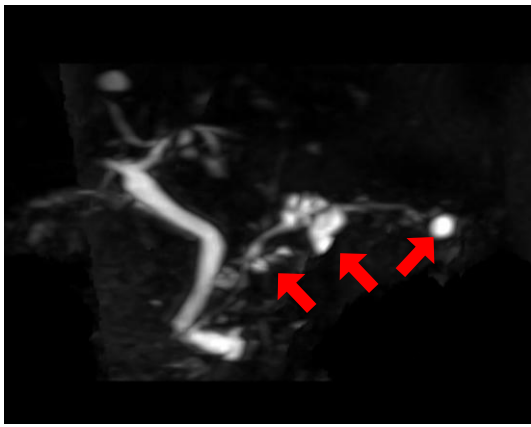
千葉中央メディカルセンター
ニュース 第95号

発刊：2026.1.20
編集：CCMC 広報委員会

1 面：（特集）MRCP 検査 2・3 面：病院満足度アンケート 4 面：Information

特集：MRCP 検査

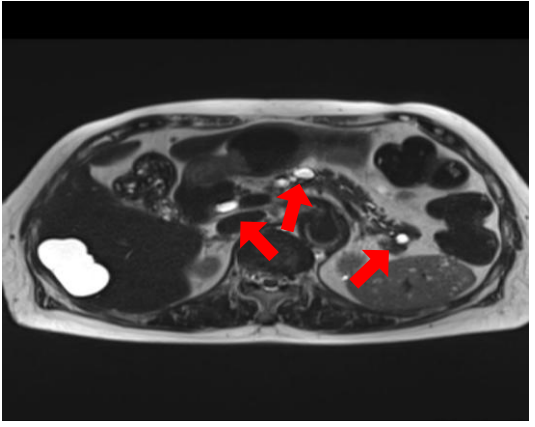
MRCP（磁気共鳴胆管膵管撮影）は、MRI（磁気共鳴画像法）を応用して胆道系および膵管を非侵襲的に描出する検査です。放射線被曝がなく造影剤を使用せず、体への負担が少ないことが大きな特徴です。胆石、胆管炎、膵管狭窄、腫瘍性病変などの診断にも広く利用されます。とくに膵がんは自覚症状が乏しく、発見されたときにはすでに進行していることが多い疾患です。そのため、早期発見が極めて重要ですが、膵臓は体の奥深くに位置し、小さな腫瘍を見つけるのが難しい臓器でもあります。こうした背景の中で、MRCPは、膵がんの早期診断に有用な非侵襲的検査法として注目されています。膵がんの家族歴・喫煙・飲酒・糖尿病・肥満や、慢性膵炎・膵嚢胞・膵管拡張などの膵疾患は、膵がんのリスクとされています。MRCPでは、水分を強調して撮影する特殊なシ



MRCP

消化器内科/人間ドック科 佐藤 恒信
放射線科 部長 林 敏彦

ーケンス（T2 強調画像）を用いることで、胆汁や膵液などの液体が高信号（白く）に描かれ、周囲の組織は低信号（黒く）として表現されます。その結果、胆管や膵管の形態や拡張、閉塞部位を鮮明に確認できます。また総胆管結石や膵管狭窄の検出に優れており、ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）に比べて侵襲性や合併症リスクが極めて低い点が利点です。ただし、MRCP には限界もあります。小さな結石や空気の影響を受けやすく、動きによるアーチファクト（画像の乱れ）が生じることがあります。また、治療的操作はできないため、診断後に治療を行う場合は ERCP などの追加処置が必要です。当院では消化器内科や外科外来のほか、人間ドックのオプション検査でも MRCP が受けられます。担当の先生や健康管理センターにご相談ください。



T2 強調像

入院患者満足度アンケート調査結果（要約）

当院では、入院患者さんの満足度に関するアンケート調査を通年実施し、今後の医療サービスの向上を図るための参考資料として活用しております。入院中の様々な検査・治療等多用にも関わらず、多くの方にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

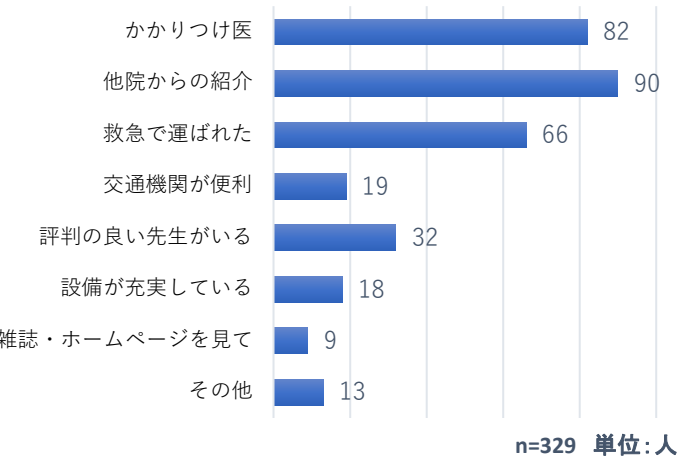
<調査概要>

対 象：下記期間に入院されたすべての患者さん
期 間：2024 年 11 月～2025 年 10 月
回答数：245 名（男性 125 名、女性 110 名、未記入 10 名）
回収・集計：サービス向上委員会
監 修：総合相談 SC 課長 清水 千賀子

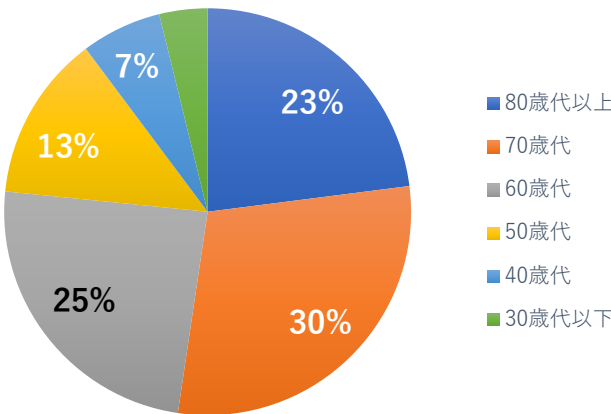
アンケート回答者



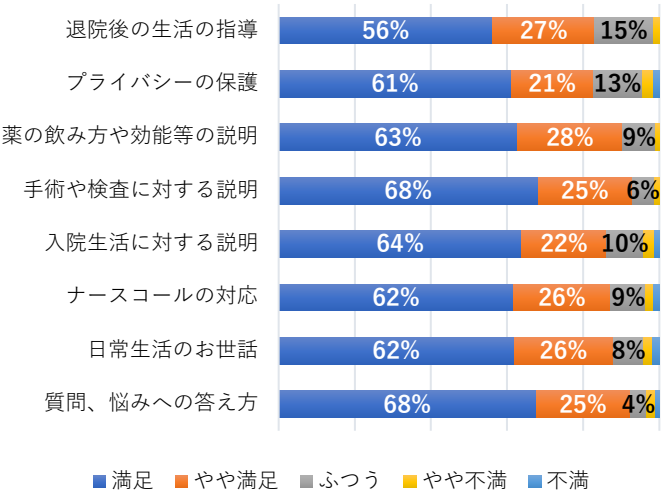
当院を選ばれた理由



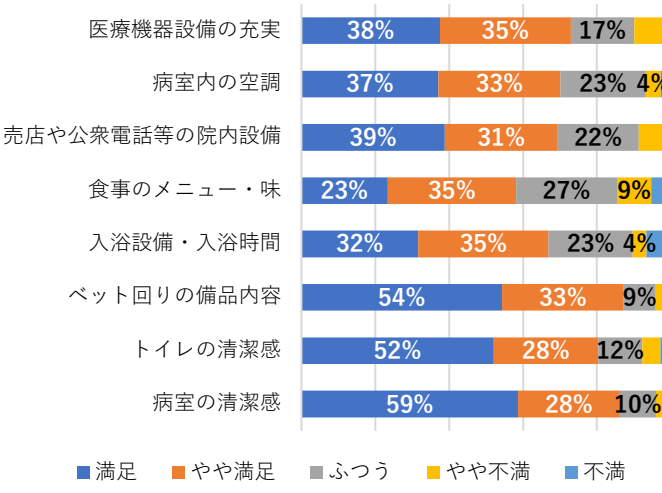
年齢



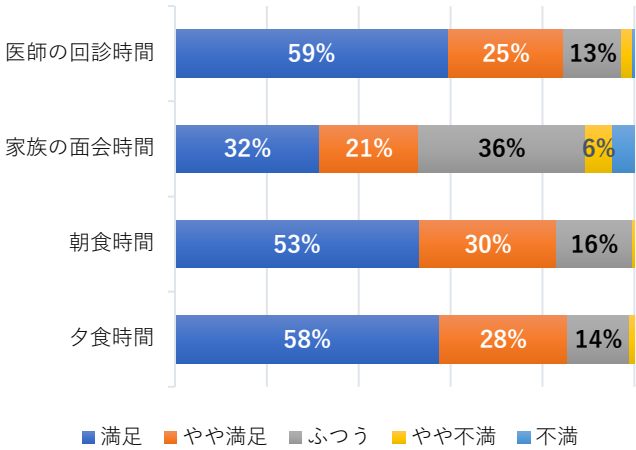
人的サービス・情報提供について



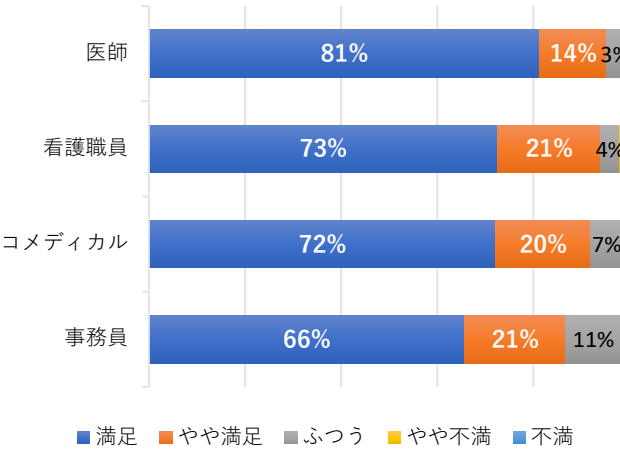
設備・機能について



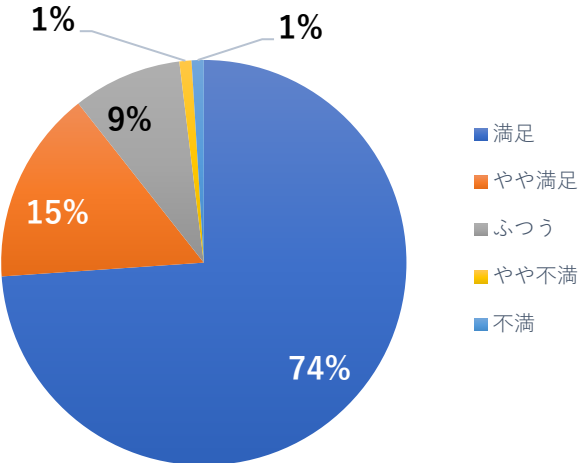
時間管理について



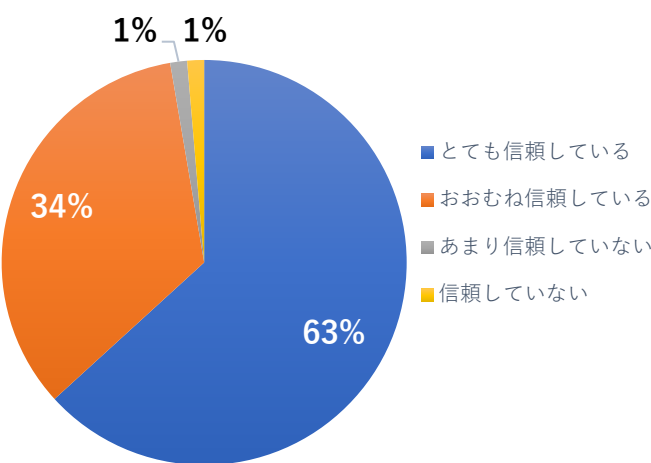
職員の対応



当院全体への満足度



全体としてこの病院を信頼していますか



この度は、入院患者満足度調査にご協力をいただきありがとうございました。皆さんからのご意見をいただきました中では、多くのお褒めの言葉いただき、職員一同大きな励みとなりました。その一方で厳しいご意見も頂戴しております。よりより病院づくりを目指すため「事務の対応に丁寧さが欲しかった」とのご意見を今回の改善課題として取り上げさせていただきました。病院という場所は多くの職員が国家資格を持つプロフェッショナルの集団であります。その中で事務職員の多くは資格を持たない職員がおります。医療に携わる病院職員として重要な事である「患者さんの目線に立つ」という視点が足りていないのではなかろうかと考え、事務部接遇研修を実施いたしました。接遇研修では「患者さんの目線に立つ」とテーマで講義を実施すると共に、当院の患者さんへは高齢の方が多いため、千葉県社会福祉協議会から高齢者疑似体験キットをお借りして疑似体験講習を実施いたしました。体験講習の中において、自分たちで気が付けない視点を多く学ぶことができ、今後の改善につなげる取り組みが少しはできたのではないかと考えております。今後もより丁寧な対応ができるように心がけて参ります。

事務部 部長 松岡 祥男